

校長室から ひがしなら通心

(H29年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 24

平成29年9月1日(金)発行

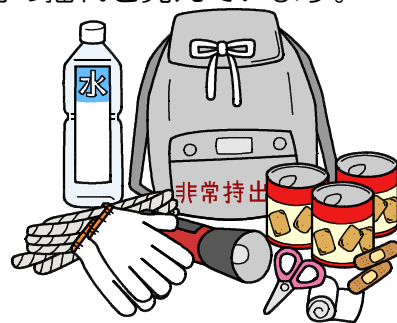
今日は「防災の日」です

今から94年前の1923年(大正12年)9月1日午前11時58分、関東地方を襲った関東大震災が発生した日です。マグニチュード7.9、死者・行方不明者が14万人を超え、全半壊の戸数が約25万戸、焼失家屋約45万戸という大きな被害を出しました。その教訓を忘れないために、昭和35年6月11日の閣議決定で「防災の日」が設けられました。

関西では、平成7年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」がありました。マグニチュード7.2、死者約6,300人、ケガ人約38,000人、火災・壊れた家は約20万戸でした。今でもあの時の揺れを覚えています。

この科学が進歩した時代ですが、残念ながらまだ確実に地震を予知することはできません。

「災害は忘れた頃にやってくる」と言われています。そのためにも、日頃からいろいろな準備をしておきたいものです。9月に入り、本格的な台風の季節でもあります。ラジオは？懐中電灯は？(乾電池は切れていませんか？)ろうそくは？食料は？非常持ち出しは？一度、各ご家庭でもご確認ください。



千年に一度の災害に備えよう

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、多くの人たちが尊い命を失いました。みなさんの中にも覚えている人が多くいることでしょう。想定をはるかに超えた巨大津波が押し寄せ、逃げ遅れた人たちが多数いるなか、岩手県釜石市の小中学生は、ほぼ全員が助かりました。

大きな揺れの後、「津波が来ても、どうせ、いつものようにチョボチョボでたいしたことはないだろう」とのんびりかまえる大人たちに、子どもたちは「大きな地震の後には、大きな津波がやってくる。早く、高台に逃げよう」と必死に訴え、素早く行動したことが、自分の命を、家族の命を守ることに繋がったのです。



このことは「釜石の奇跡」と言われていますが、インタビューに答えた6年生は、「奇跡」ではなく「実績です」と答えています。きっと、日頃から学校で、「津波や大地震が来たとき、どうすればよいかという学習や避難訓練」「学校の外にいた時の避難場所や危険箇所を自分の足で調べて地図をつくる」などの学習を積み重ねてきたことが、「奇跡」ではないという思いを抱かせたのでしょう。

日本は有数の地震国です。今後も大きな地震が起きることは十分に考えられます。国の有識者会議が公表した「南海トラフ巨大地震」が発生した場合の被害は、最悪死者32万人という想像を絶する想定でした。しかし、津波などに備えた防災対策や迅速で的確な避難により、死者を6万人程度に減じることができるとも予想されています。

災害はいつ起こるかわかりません。先生や大人が常にそばにいるとは限りません。釜石市の子どものように、災害から自分の命や大切な人たちを守るために、「日頃からの備え」と「災害が発生した時の冷静な判断と素早い行動」ができるようになってほしいと思います。

大阪880万人訓練があります

9月5日(火)午前11時から、大阪府下全域で大地震発生を想定した「880万人訓練」が実施されます。この訓練のねらいは、災害が起こった時に、一人ひとりがどのように行動したらよいのかを日頃から考え、いざという時に、とっさに行動できるようにすることです。本校では、地震発生後に来るであろう強い揺れに備え、自分の身を守る訓練(姿勢を低くし、机の下に入るなど頭・体を守る、窓等のガラスから離れる)を行う予定です。

なお、茨木市内は午前11時03分と05分の2回、携帯電話に緊急速報(エリア)メールが、マナーモードにしている場合でも強制的に鳴動します。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール14 自分からごほうびをほしがってはいけない

よいことをしたからといって、「ごほうび、もらえる？」と自分から聞くのは礼儀に反する。

●よいことをするのは、ごほうびをもらうためではない。きみたちは自分を高めるために、よいことをしたりベストをつくしたりするべきだ。ごほうびより、きみのした努力のほうが、ずっと大切だ。